

平成 28 年度 ふるさとのづくり支援事業

市町村名	奈良県川西町	
事業名	地域特産品「結崎ネブカ」1.5次産業化促進プロジェクト	
企業等概要	企業等の名称	川西町商工会
	代表者氏名	会長 吉村 伸泰
	所在地	奈良県磯城郡川西町結崎 217-1
	連絡先	0745-44-0480
	URL	http://ec.shokokai.or.jp/cmsdb/cm06010/index/?ken=29&block=30

平成 29 年 12 月現在

【事業者概要】

川西町商工会は、昭和 46 年に設立し現在 201 事業所の会員を有する。経営者や創業者へのサポートをはじめ、町の地場産業である「貝ボタン」や本事業の発端でもある「結崎ネブカ」の復活と地域ブランド化の推進なども積極的に手掛けている。

【事業概要】

◇背景・経緯

奈良県北西部の大和盆地のほぼ中央に位置し、観世流の発祥地としても知られる奈良県川西町。平成 14 年に実施された商工会主催による町おこし事業において、町の特産品として町外に発信できるものを模索する中で「結崎ネブカ」が見出されたことをきっかけとして、その復活とブランド化を推進し、流通、販売が開始された。



観世流の発祥を伝える碑と『面とネギ』の伝承に由来する「面塚」



結崎ネブカ

本地域では「空から能面と一束のねぎが降ってきた」という伝承があり、能楽完成に偉大な功績を残したことで知られる観阿弥・世阿弥の能楽観世流の発祥とともに、戦前までネギ（ネブカ）の産地として広く認知されてきた。

しかし、戦後、ネブカはその特徴である柔らかさとしなやかさにより、折れやすく見た目の印象から徐々に生産が減り、市場から姿を消していた。

「結崎ネブカ」の、収穫時期が限られ年間を通じて流通しない、葉が柔らかく日持ちしにくい、主役の食材にならないといった課題を解消するために、大学と連携したレシピ開発や、加工品の研究を行ってきた。ただしラベルやパッケージについてはロットやコストの問題から手が付けられていなかった。

◇開発概要

既にレシピ化していたものについては、レトルトパウチや冷凍といった、商品の提供方法を研究。商品ラベル、パッケージ、販促 POP などの開発とともにイベント等による市場調査を実施し、新たに焼酎やコロッケ等の加工品の開発にも取り組んだ。

パウチの充填において衛生上の問題が解決できず商品化を見送ることとなった以外にも、アイキャッチ効果を重視した商品ラベルやパッケージにおいても、表示等で保健所や税務署など監督当局の指示に対し、細かな対応を要した。

【成果】

◇地域性・特徴

新たに開発した「結崎ネブカ焼酎」は、試飲会等の市場調査により、他産地の競合商品との差別化を図るため、ネブカを10%以上も使用してネギの香りを強調させることで、意外性と話題性に富んだ「強烈な香り」を特徴とする商品となった。また、「結崎ネブカのコロッケ」は、ネギを使ったコロッケという発想が珍しいことに加え、ネブカの柔らかいながらも歯ごたえのある食感を残しつつ、ネブカを使った料理のイメージのある「すき焼き風味」とした。

販促に必要なレジ袋・保冷パックも制作。販売で制約の少ない常温で提供できる商品ラインナップを増やしたいが、ロット面で冷凍食品とせざるを得ないことが多いためである。結崎ネブカのキャラクターをデザインし、結崎ネブカのブランド化を促進させるものとした。



結崎ネブカ焼酎「一天一束」



結崎ネブカのコロッケ



レジ袋（緑）4号・2号



レジ袋（ピンク）4号・2号



保冷パック

◇商品化・販売先

「一天一束」と名付けられた「結崎ネブカ焼酎」は、平成29年度は募集したモニターへの試飲のみとなった。11月より再度製造に入っており、正式販売は平成30年5月頃からとなる予定である。「結崎ネブカのコロッケ」はこれまでイベント等を中心に約2,000個を販売している。反応は良好で商品化への要望も高いものの、スポット以外の販売店が確立していないこと、家庭用としての商品提供方法が未整備であることが課題として残っている。

その他下記3種類が完成品となっており、町内外の飲食店への業務販売のほか、ネット販売を含めた一般販売、ふるさと納税の返礼品としての使用を予定している。



結崎ネブカの
食べるラー油



結崎ネブカの塩だれ



結崎ネブカの鍋スープ

【今後の展望】

モニター販売などを通じて得られた意見を反映させ、本格的な販売に向けてブラッシュアップしていく予定である。現時点では「結崎ネブカ」は生産量が少なく、生産者が加工販売まで携わっていないため、商工会が中心となって総合的な広報普及及びこれらの加工品の開発、販売を行っているが、取扱いロットを拡大するなかで、将来的には

はまちづくり会社の設立なども視野に入れ、徐々に量産化できるよう販路設計や販売窓口の確保をしていきたいと考えている。